

# 令和3年度第3回日進市わたしのまちのしあわせづくり委員会

## 議事録

日 時 令和4年3月28日(月) 午後2時～午後4時20分  
場 所 南庁舎2階 第5会議室

出席者 <委員>谷口功、長谷川純、小池由成、神野建三、大野忠夫、  
(敬称略) 大津正仁、秋田有加里、山田幹雄、興梠精視、幸村朋子、  
井口紘一、数井美津子  
<事務局>市:伊藤あゆみ(健康福祉部担当部長)、加藤誠(地域福祉課長)、  
緑川知子(同主幹)、西尾直樹(同補佐)、新海洋人(同主査)、  
中村聡美(同主事)  
社協:伊東幸仁(事務局長)、天野典幸(包括支援課長補佐)、  
江崎香利(地域福祉課長補佐)、富岡亜希子(同係長)

欠席者 成田ゆき江  
(敬称略)

傍聴の可否 可

傍聴の有無 4名

次 第 1 あいさつ  
2 議事  
(1) 活動団体アンケートについて(報告)  
(2) にっしん幸せまちづくりプラン令和3年度事業報告及び  
令和4年度実施方針について  
3 その他

事務局 定刻になりましたので、令和3年度第3回わたしのまちのしあわせづくり委員会を開催いたします。本日は、1名の委員がご都合により欠席のため、委員13名のうち、12名の方が出席されております。会の成立には半数以上の出席が必要となっており、本日の委員会は成立します。

でははじめに、谷口委員長よりご挨拶をお願いします。

(委員長あいさつ)

それでは議事に入る前に、会議資料の確認をお願いします。

(資料確認)

それでは、これからの進行については、委員長にお願いいたします。

委員長 本日4名の方が、傍聴を希望しておられます。日進市市民参加及び市民自治活動条例施行規則第16条の規定に基づき、会議を公開とするのか非公開とするのかを決定します。本日の議題は次第のとおりです。審議の段階で個人のプライバシー等明らかに公開するのに適当でない事項の審議はありません。会議の公開についてご意見がなければ、第10条及び第11条の規定に基づき入室を決定したいと思います。よろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、傍聴者をお通しします。

議事(1)「地域活動団体調査について」について事務局から説明をお願いします。

事務局 (活動団体アンケートについて資料1、参考資料を使って説明)

委員長 ありがとうございます。概要版という事で今説明していただきましたが、細かく報告書を出していただきましたし、今の説明にもありましたように、今回自由回答をかなり丁寧に皆さんやっていただいて、報告書の半分近くが自由記述になっておりますのでぜひとも目を通していただければと思います。最初に趣旨説明もありましたけども前回この計画作成にあたって、たすけあい会議、一層、二層、三層と重層的に支援をする仕組みを作るうえでどうやったらうまくいくのかと言う事を考えて参りました。それに向けての基礎調査と言う事で今回位置付けられている訳ですけれども、この回答を見て気になる事があればどうぞ。

委員 あの短い期間にアンケートの調査から結果のまとめまでありがとうございました。この調査は、たすけあい会議設置の基礎調査と言う位置付けになっていますのでその視点から三つお話をさせてください。10ページや14ページにある他団体との協力関係について、たすけあい会議は課題解決の場になっていくと思うので、今後課題意識や解決の為の協力体制を団体同士がどういう風に作っていくかと言

う部分は、誰がどのようにやっていくのかイメージ等があったらお聞かせ下さい。それから自由記述欄に、各団体さんや地域のコミュニティーの方から地域のネットワークを作る為の記述がある中で、繋がりたい団体名や場面等、繋がりを求める記述が具体的に書いてありますが、この繋がり作りを今後誰がどのように行っていくのかと言う事も教えて下さい。

また、自由記述の中には他部署に関係があるような記述もありましたので、各意見の関係する庁舎内の部署に対してこのアンケート結果はどのように反映させるのかを教えて下さい。

事務局 一点目と二点目の所は少し重複する所もありますが、今回ご意見いただきました結果としては、いろいろな団体がそれぞれの活動分野の中で他の団体と結びついているのがいくつか見られたと思います。また、地域の団体によっては12月の委員会の時のように区や自主防災・自主防犯はもうすでに一つのまとまりとなっている点も見えました。既存のまとまりを活用しながら地域の支え合い、助け合いの仕組み作り、課題解決の仕組み作りというのを今後検討していくと事務局では考えております。続いてアンケート結果につきましては、今回の速報は各団体を所管している部署に報告をしております。また、地域版などもう少し細かくまとまった報告書ができましたら、改めて各課、にぎわい交流館や社会福祉協議会に送付したいと思っております。以上です。

委員長 繋がりたい団体同士がいたときに、そこを繋ぐ役目の人がいないとなかなか繋がっていかない現状があるので、こういう自由記述が出てきていると思います。繋がりたいけども繋がっていない団体を、生活支援コーディネーター、社協、CSWや各団体の所管する課が繋げる場合もあると思います。それを一つ一つ、このケースに関してはどこがやる、誰がやるという事を考えて実行していく事で地域のネットワークが出来ていくと思いますので、自由記述でわかった具体的な事を丁寧にやっていく事がたすけあい会議の設置に積み上がっていくのではないかと考えておりますので、ぜひお願いしたいと思います。

委員 この結果は、今年度の区長と来年度の区長両方に渡っているのですか。それとも区の場合は今年度の区長だけですか。

事務局 速報は令和3年度の区長にはお渡ししていない状況ですので、令和4年度の区長にお届けする形になると考えております。

委員 今は両方ともにアンケート結果は渡っていないということですか。

事務局 はい。今の時点では両方ともにお渡ししておりません。

委員 このアンケートに答えたのは今年度の区長なのに、アンケート結果は新年度の区長にだけ渡すということですか。

事務局 区長宛で送付予定です。新年度になってからのお渡しになるかと思いますので、令和4年度の区にお渡しする形になり、令和4年度の区長さんのもとにのみ届く形になると想定しております。

委員 わかりました。このアンケート結果は公開されますか

事務局 市のホームページで公開を予定しております。

委員 では、アンケートを答えて回答していただいた方に送るというよりは公開したものを見てほしいという事ですか。それとも区長には送るという事ですか。

事務局 回答いただいた方には報告書と言う形でお送りさせていただこうと思っております。

委員 それだと先ほどの回答と少し違ってくると思いますが。

事務局 区長さんという形で回答いただいているので、結果報告書は令和4年度区長宛てに送る形になるかと思います。団体の長宛てに今回アンケートを実施させていただいておりますので、区長に限らず、送付時点での組織の長の方にお送りする形になると今の時点では考えております。

委員 感想ですが、区単位でやっている区長をまとまりとした団体と、区をまたいでいるような形でまとまりと二つの体系があるように思いますが、その二つが混ざり合って書かれているので非常に理解しにくかったです。

事務局 今回調査表をあえて地域の方向けとか市民活動団体向けとか分けるのでは無く、同じ質問項目でお送りさせていただいております。それによって逆に分かりづらくなってしまった所もあると思いますが、回答から見てみるとそれぞれ地域の活動している方と、もっと幅広く活動している方との違いも出てきましたし、共通している所も出てきたと感じております。事務局としましてはあえて共通した質問項目にして良かったという所もあります。

委員 16ページの企業や事業所などとの協力について、協力されていない団体が多いと思いますが、デンソーの先端技術研究所とSOKENと繋がりがあり、先日お

手伝いできることがないかと前向きに回答をいただいています。その方はバルーンアートもやっており、他にプログラミングを教えたい人が多いとのことでしたので、学生と協力しながら何か出来ないかと感じております。企業側も何かきっかけを探しておられる気がしますので、社協とも繋がって何か実施していただければと思います。次に26ページに活動に関する課題などがありますが、①会員が増えない②会員の高齢化③役員のなり手と全て人に関する事柄で、福祉も職員のなり手がほとんどおらず、その点で共通しており、なぜ増えないのか共に考えられたらと思います。

事務局 地域と企業の連携について、他記述等で色々なコメントをいただいておりますが、地域ではイベントへの協賛・協力が多かったと思います。先ほどご意見いただきました企業への声掛けや機会は今後、地域の支え合い助け合いのなかで非常に大事な要素の一つと市でも思っております。また、会員が増えない、会員の高齢化、役員のなり手の問題は負担のイメージが大きく、実際やってみると楽しいなどの意見も自由記述でいただいておりますが、以前から続く課題だと考えております。平成20年頃に今回と似たような市民活動団体のアンケートを市が実施していたと委員長から情報提供をいただいておりますが、その折も役員のなり手について各団体が課題としており、難しい課題ではあると存じていましたが、改めて市としても続いている課題だと認識したところです。

委員 委員のみなさまからも事務局からも課題にあげられた会員が増えない、高齢化している、役員のなり手がいないとのことですが、その通りのことが老人クラブ連合会でも生じております。それもコロナの2年間に急速に進んでおり、3～4年前は約7,000人の会員がいましたが、現在約6,500人に減り、クラブ数も約40クラブから37クラブに減り、令和4年度は33クラブに減ると予測され、会長のなり手がいないとの理由で休会になり、クラブの合併などが生じています。今まで老人クラブは元気の良いお年寄りが、皆で力を合わせて色々な行事をやりましょう、会員の中で老齢による見守りが必要な人を支えていきましょうと協力していましたが、急に支える人が減り、支えられる人ばかりが増え、危機感を覚えています。今までは連合会の中で運営していけると感じていたのが、現状のままだと無理だと感じていて、今後は外部の支援が必要になりつつあると心配しています。

事務局 ご意見ありがとうございます。連合会長からは以前からその旨のお話があり、老人クラブは地域の支え合い助け合いなど重要な役割だと市も認識しております。これからも支援をしていきたいと思っておりますし、また支援のあり方についても考えていきたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

委員長 老人クラブに関しては、自由記述の中にやはり区域を超えた形での連携をしたいとのコメントもありました。それをきっかけに区域を超えた様々な連携も進んでいき、直面している課題に向き合うことは大切だと思いますので、よろしくお願いいたします。

先程、事務局から言われた過去に日進市で行なったアンケートについて、情報提供です。ホームページにもありますが、2008年3月に「日進市市民参加条例検討のための基礎調査業務報告書」が公開されております。そのアンケートでも区に対して、似たような質問をしています。実は、回答も似たような回答になっていることを考えると行政として14年間この課題にどう向き合ってきたのか検討した方が良いと思います。同じような質問をしてこういう回答がきた、この間何が出来て何が出来なかったのか、これをしてこそ今回アンケートをやった意味だと思いますので、ご検討ください。それと先程、企業との連携の話がありましたが、この2年間企業も働き方改革やコロナの関係で様々な形の社会貢献に社員を送り出すような仕組みを設け始め、社員の争奪戦を自治体や様々な団体がやっている段階で、日進市として、企業に対して企業と団体を繋ぐということをやっているのかを教えてください。

ボランティア団体、市民活動団体はじめどのようにマッチングするのか、日進市として何か情報を持っていて行動されているのか、あわせて教えてください。

事務局 具体的な事例がご紹介できなくて申し訳ないのですが、企業が持ち込んでいただいた内容によって、それぞれの課で相談を受け、課で把握していることや関連している部署などの団体に声かけをして繋いでいく、調整させていただく流れになっているのではと思います。

委員長 国内の市町村が社会貢献をしたい社員の引っ張り合いをしている状況で、遠いところで生活しながらオンラインでの会議の出席ができること等含めて、愛知県から人が流出しています。情報発進として行政がマッチングする仕組みを持つことは、福祉だけではなくどこかの部署でしっかりやられた方が良いと思います。

委員 日進市は椋山女学園大学、淑徳大学、愛知学院大学など大学が地域での財産となり、教育委員会などは大学との地域協定等を結んでいます。学校だと椋山女学園大学の臨床心理相談を利用させていただいて、お困りのご家庭を紹介しています。また、学校に巡回指導に来ていただいて、市内の人材や使用できるものをお願いしている場面も多く、様々なものを活用することや調整を図ることが重要だと感じています。生涯学習課ではソフトバンクと繋がっていて、図書館の入館時の体温測定などで利用していますし、学校教育現場に企業から派遣講師の方が来ていただいて、理科の実験を見せていただき、学校教育に生かそうとしています。箱があるなら人を集めなくても声かけをするだけで効果が生まれていきます。物があ

るなら人が集まって何に活用できるかを繋ぐことで上手くいくことがあります。先程の老人クラブの件も人は集まると思います。そこにどのような人が来て、その人々をどのようにマッチングさせるのかというお話なのかと思いました。

委員長 マッチングという言葉が色々な場面で出てきていますが、このアンケートを見ていて色々な団体が繋がりたいがどう繋がったらいいのかという回答をしている中で、繋がっているところはそれなりの特徴があると思いますし、繋がり傾向等を確認することで、この結果から仕組みづくりをしていく根拠に十分成り得ると思います。

委員 今の話に便乗させていただきますと私たち事業所は人が不足しております。この福祉の世界は本当に不足しており、一人で何役も引き受けるというくらい忙しく、色々課題にぶつかりながらやっております。例えば先程言われた企業との連携では、地域活動をすればするほど赤字になるのが現状です。私たちは営利目的ではないので、少しの収益を使って地域貢献をしています、お金が全く足りません。故に企業と繋がり人材的なサポートを受けるととても助かるため、是非それをコーディネートしていただきたいが、日進市はそれがなく、コーディネートする人材が育っていない。何故なのかという市職員の地域に出ない、これが日進市の特徴です。他の市町村は、市の職員が市中の活動に出てきています。ところが日進市の活動報告でも自分たちが外に出ていったと言う報告は聞いたことがありません。だからもっと地域に出ないといけないと感じます。それから、ぷらっとホームと社協のほっとカフェには最終的な目的がある筈ですが、作ることの数だけ実績に上げ、しあわせまちづくりプランに掲げている目的が達成できていません。それをどう委託すると達成出来るのか、社協でやってくれるのかどうか、どうやって変えるのか、変える人は誰なのかなど問題に取り組んでほしいと思います。今回のアンケートでも具体的な言葉で書いていたが、以前にいただいた資料と似たようなことが沢山書いてあります。ここをこれからどうしていくのか、今回、私も地域の住民の活動などに関わり、ボランティア活動の規約作りに携わりました。住民活動をしていく上で規約を作っていかなければならないという壁があるのです。そこを市民協働課が色々な情報を作って住民が活動しやすいように規約作りに提案をしていく等、地域に向けて協力していけば、いろんな地域ですぐボランティアの組織が出来るのではないかと考えています。実際に自分でやってみて、みなさんがどんな事で困っているのか、色々な所からいただいた規約の中身を見ると誰もが迷い迷い作っているのが分かります。やはり地域に出ないといけないと思います。今、市民協働課は区まわりだけと言っている区長さんもいらっしゃるので市民協働課に頑張ってもらいたいと思います。

委員長 ありがとうございます。先程からも話しているとおり、この結果をどのように庁内で活かすかと言う事だと思います。市民協働課に関わる場所もありますので、共有していただきたいし、具体的にこれだけの声が上がってきていることを行政としてどうするのか、どうすればマッチングできるのかという事に繋がると良いと思います。ただ、このマッチングの話というのはこの20年ずっと色々な市町村が悩みながらやってきているがうまくいかないという悩みを抱えています。マッチングは職人技みたいなのところもありますし、制度でどうしていくのか、仕組みをどう作っていくのかという両方が必要となると思いますので、そういった行政として繋ぐ仕組みをどう構築するか考えてほしいと思います。

このアンケートの概要版の回答数からわかるように、活動している方がたくさんおられることは日進の強みだと思います。区や自治会、そしてにぎわいや社協に登録している団体等、真摯に活動している方達がおられるので、それを繋ぐ仕組みを作っていく、ずっと議論しているたすけあい会議に繋がっていけばと思います。

委員 このアンケートを読ませていただいて、ボランティア団体として皆さんがどう考えているかよく分かりました。ボランティアとして社会福祉協議会に登録されている団体が86団体あるにも関わらず、ボランティア連絡協議会に登録して参加している団体は21団体しかありません。ボランティア連絡協議会はどういう事を目的にしているかという、横の繋がり、あるいはお互いにボランティアとして行き詰まった時に相談できる体制を自分達で作っていくことだと思いますが、登録している団体が少ないです。また、役員をお願いすると、役員をするのだったら協議会を脱退するという団体が多くて役員をやっていただけの方がいないこともあり30年ぐらい続いてきた協議会をこの3月をもって解散することになってしまいました。相談したい事があり、その窓口があったにもかかわらず、利用していただけなかったということが残念であったと思っています。協議会があるという事を、社会福祉協議会がボランティアセンター登録の際に説明はされていたのですが、参加していただける団体が少なかったことは本当に残念でした。そういう事情があるにもかかわらず、このような問題があるということは解せない事だと私としては思っています。今後ボランティア連絡協議会のような団体ができるかどうか分かりませんが、出来た場合にはもっと活動をしていただけるような団体にしていっていただきたいと思っています。

委員長 今、連絡協議会の話がでましたが、連絡協議会がなくなることにに関して補足説明をしていただければと思います。

事務局 ボランティア連絡協議会におかれまして、存続または次の担い手探しは、私が記憶しているだけでも4～5年行われていました。ボランティア団体も様々な形態があり、普段平日フルタイムでお勤めしている中、平日の夜間だけボランティア活動

をしてくださっている団体や、週に一日だけ動ける日で尽力してくださっている団体も増えています。70才まで働く方や共働きのご家庭も増えていく中で、ボランティアの取り組み方が多様化していると思います。ボランティアを一つ始めると色々な所から頼まれるので、大変だという相談を非常に多く受けています。それ故、色々な団体さんと繋がっていきたい、繋がっていけるという団体さんにはそれを支援するような窓口あるいは体制の充実、一つだけの活動または僅かな時間帯だけの活動をコツコツ続けたいというような団体さんには、それを続けていただくための支援の方法を多く揃えていく必要があるかと思っておりますので、ボランティア連絡協議会さんは今年度で解散ということに決まりましたが、今後色々な方法で繋がっていくあり方は皆さんと共に探していきたいと思っております。

委員長 色々な団体が助けてほしい、支援してほしい、繋がりたいとそのように思っている団体がある一方で、それをする組織があることが伝わっていなかったというミスマッチです。つついあるのだからと作っている側は言いたくなりますが、助けてほしいがそこではないということがあると思います。だからこそどうすれば助けてほしい人と支援する団体がお互い繋がる事ができるのかと丁寧に考えていく方が良いです。これは区にしても同じで、地域の活動で何か困った事があると、そういうのは区に聞けばいいと言いますが、区は本当に支援できるのか出来ないのか、支援する側、されたい側をどう繋ぐのかを考える必要があります。組織や制度があればいいというわけではないというのが大前提だと思います。

委員 私が今所属している団体は、にぎわい交流館の登録団体ですが、4年前に地域に大型ショッピングセンターが出来た事からまちあかりと称するイベントを始める事になりました。これまでは人伝てに誰か参加してくださいということをやっていましたが、中々人も集まらず、イベントそのものも周知されないということもある中で、昨年今頃に若い人に加わって、インターネットを使ってSNSやフェイスブックを使った広報をしましょうというご提案をいただきました。にぎわい交流館の登録団体の中にこういったことをやっている団体があったので、我々の方からお声掛けをして色々周知をさせていただいたら、大学のサークルの方が加入されたりとか地域の鳴子踊りの団体が加入されたりとか、先程お話にもあがったトヨタのボランティアの方から連絡が入ったりとかで、今年はかなり年齢層が若くなって人も増えたということがありました。全部の団体には難しいとは思いますが、SNSを活用できる状態、そういったものを使用した情報提供は重要だと感じました。

委員長 自由記述の中にも、SNSでの情報の発信の仕方について提言等ご意見をいただいております。企業との連携でホームページの更新や情報を発信したいけれども伝えられないと多くの団体は悩まれているので、それが得意な若い学生であった

り、企業であったり、そこを上手く繋ぐというのも今後問われていくと思います。良い例がありますので、参考にしていただければと思います。

委員 このアンケートはやっていただいて良かったと思います。問題点は読み取れましたので、これをベースに地域の中で意見交換をしたいものです。報告書は区長、自主防災会、こども会や家庭教育推進委員会に届くのはいつ頃ですか。

事務局 4月中にはお送りできるように努めたいと思っております。

委員 4月中ですか。

事務局 できるだけ早いタイミングでと思っております。冊子だけなら今日配らせていただいているので、共有していただいても良いですし、速報の資料だけでしたら市のホームページに速報版だけ載せるということも出来るかと思えます。

委員 速報版をホームページに載せて全員が見てくれれば良いのですが、中々そうはいきませんので手元に届けていただきたいです。これをベースにして意見交換していきたいので、出来るだけ早くお願いします。

事務局 わかりました。出来るだけ早めに努めさせていただきます。

委員長 自由記述の中に他の区や他の団体はどんなことをやっているのか聞いてみたいと言うコメントもありました。他の団体の情報を知るという意味でも一つのテキストになると思いますので、広く見ていただき、自分達だったらどうするのかといったような市民の認識を深めるといった事に繋がりますのでよろしくをお願いします。

委員 防犯の一団体としてこのアンケートに回答をし、速報版を読ませていただいて感じた事ですが、それぞれの団体の回答でかなりの温度差を感じます。12月の会議の時に事務局からある程度は承知の上でやるとおっしゃっていたけれど、これを読ませていただくともっと関係のある部署がいくつかあっても良く、かなり抜けているところがあると思えます。これを額面どおりに受け取るというのはいかなるものかなと思っていて、もう少し潜在的なものがあると感じています。それをどうしたら良いのか私にもわかりませんが、このデータを読み解く限りにおいて何か心構えが必要になってくるのではないかと思いますので、一言お話させていただきました。

事務局 貴重なご意見ありがとうございました。

委員 繋がり合い、連携とありますが、同じ人ばかりがやっても仕方がないと思っています。自治会でもまちづくり協議会でも埋もれてしまう人がいないように出来るだけ幅広く色々な人が顔を出し、顔が繋がっていくような組織にできないかという事が私自身の理念として常に頭にあるので、ほっとカフェでも何人集まったかに加えて新しい人が何人来たかも非常に重要視しています。それぞれがどうあるべきかを考えながら、それに合った活動をしているのだろうか、それに合わなかったら社会福祉協議会等に助けていただくとか、自治会に協力いただく、協力するといったことをやっていかないといけないと思います。数だけではなく、中身を問題視していきたいです。

委員長 ありがとうございます。両委員の指摘にもありましたが、あくまでもアンケートであってアンケートでしか読み取れない事もあります。先程潜在的と話をされましたが、ここに載っていないものをどう見つけるのかがある意味での社会調査です。アンケートからはすくい取れないものは、質的調査といって個別に聞き取り調査をしたりしてそこに根拠の厚みをつけていく一側面だと実施した側も認識していただければと思います。現に防犯のところではこれは額面どおりに受け取れないのご意見をいただきました。ここに含まれていないものがどういうものなのかというのは地域福祉課なのか防犯に関わる課なのかわかりませんが、きちんと声を聞くという事をした方が良いと思います。そこを上手くすくい上げる事が出来るとこのアンケートをした意味も深まると思います。時間のこともあるので、またご意見があれば後ほどお聞きするという事で、今年度の進捗状況も含めて、次の議題も説明していただきたいと思います。

事務局 (にっしん幸せまちづくりプラン令和3年度事業報告及び令和4年度実施方針について資料2-1、2-2、2-3を使って説明)

委員長 ありがとうございます。今年度の報告と次年度に向けてですが、資料2-3の表と裏の関係について少し確認です。重層的支援体制整備事業1・2・3の内、日進市としては1の相談支援ともう一つ対になる形、両輪として3の地域作りに向けた支援を整えていきたい、まずは相談支援の部分が先行する形になると思いますが、包括的な相談支援の体制は、この裏面にあるような仕組みを専門機関・専門課と共に考えていくといった理解でよろしいですか。

事務局 はい。令和4年度についてはこの3つの仕組みのうちの1の相談支援の部分についての構築を検討していく考えです。

委員長 現実的にはそういった今ある専門機関や組織をどう繋いで、包括的な相談支援の

仕組みを作っていくかというところを進めていただき、先程のアンケートの結果でみえた色々な支援の仕組みというのが、この3の地域作りに向けた支援という部分に重なってくると思います。資料には、各分野で実施されてきた地域作りの多層性を活かしつつ支援とあります。先程のアンケートはまさにこの地域作りの多層性といったものが見てとれたと思います。そしてお互い支援をどう繋ぎたいのか、繋いでいってほしいのかといったコメントもあったように、この3の地域作りに向けた支援、この住民同士の顔の見える関係性の育成支援、これに関してもきちんとどう進めるという事もやっていただきたい。これがたすけあい会議のまさに両輪になっていく仕組みの一つだと思います。

委員 CSWというのはどうやって募集されて機能させているのかと言うことを教えてください。

事務局 現在CSWは社会福祉協議会の地域福祉係におりまして、個別の課題を長期的に伴走支援しつつ、一人の方がそういった困り事があるという事はその地域には10人同じように困っている人がいるだろうと認識する事で、個人の伴走をしつつ、それを助ける仕組み作りも行なう職種です。CSWを募集というよりも社会福祉協議会の職員の中でそういった研修を受けた者をその任務に対応させております。

委員 数としては何人ですか。

事務局 現在3名です。

委員 来年以降その配置は増やせるのですか。

事務局 先程計画があったように、計画に沿って増やして行きたいと思っています。

委員 それで数は足りるのですか。目標値の達成として、1人増やすことは正解ですが、1人増やすことが正解かどうかは疑問です。

事務局 今回の計画の後期では、西・中・東の3地区に分かれてそれぞれに1人ずつ配置をし、それを統括する様な形でもう一人の合計4人を配置していくという目標設定をさせていただいております。

委員 今4中学校区で4人SSWがいますが、SSWがとても苦勞して下さっていて、すごく学校現場で助かっています。ただ、本当に相談件数が多いですし、抱えている仕事もたくさんありますので、増やしてくればそれは良いとは思いますが

が、CSWもすごい多くの機能性を求めるようなイメージだと思いますので、それを今の社協の中で担うのが正解か少し疑問です。ただ、簡単に集まって来て成り立つものでもないと思いますし、日進市のしあわせまちづくりプランは、木のイメージで社協は太陽としてそそがなくてはいけないのに業務過多になってしまう事で他の業務が機能しなくて太陽にならずに沈没してしまうのではないかと思います。SSWの話在先程出しましたが、給料面、保障面というのが、他市町に比べて日進市非常に細い中で奮闘してもらっています。その方たちの善意に甘えていると共倒れになっていくので、CSWという役割がある事でこの図面は光り輝いていくのかも知れませんが、実際その方々が輝くようにしていかないと倒れると思います。

事務局 CSWそのものについてはこれまでは社会福祉協議会独自の制度ですが、これが重層的支援体制整備事業という公的な職種として明文化されたとは個人的には思っております。何をもって足りないとするか非常に難しい所で、包括支援センターも生活支援困窮者相談係も足りないと言えば、足りていませんが、重層的支援体制整備事業を取り入れる事で、兼務状態であるCSWの業務整理をしながら、職員の負担というよりも、相談に来て下さる市民の皆さんに対してスピーディーに対応出来るようにするために、この事業を取り入れる事で体制を見直すことがあると思っています。

委員 素晴らしい。コーディネーターと言うのは相談を受けるものじゃなくて外に出なくてはいけない。だから意識改革なのかなというのが感想です。

委員長 SSWも学校という空間の中で、一杯一杯になりながらやっておられる。それがCSWになった場合にはもっと課題が重層的になり、困難になってくるのでCSW自身もきちんと変わった方が良いという風に言われていましたけれど、そう出来るような体制が次の制度の中で構築できればと期待したい所です。

委員 プランの32ページを見ていただきますと、基本目標3や重点事業5としてつどいの場の開設支援というのがあります。つどいの場の開設や運営は行なわれているが、地域課題を解決する協働組織の機能には至っていないと書いてあります。この人材を育成する課は誰なのでしょう。

委員長 今言われたのはアンケートではなく、プランの中間見直しになります。32ページの重点事業の中に記されています。

委員 プランの課題解決のために誰がどのように動いていたか、これが先程のボランティア連協が無くなったこととほぼ一致します。ボランティア連協を大事な時代に

無くしてもいいのかと思います。NPO法人を運営していますが、全て社協がやるべき地域課題に私達は取り組んでいます。日進市に地域密着で取り組んでいますし、課題解決型でやってきました。ボランティア連協がボランティア連協の中で、なぜ協議ができなかったのかというと、人材育成が出来ていないからだと思います。ボランティア連協を自分で作りたかったら、日進市には迷惑だと言われました。その職員は定年退職されましたけど、私はがっかりしました。連協ができたので登録しようとしたら、NPO法人になったら要らないとか、団体が違うとか言われました。そもそもそこに登録したことによって私達が成長している実感がわかなければ、そこに参加している意味がないと思います。ただ場所を使うだけではなく、そこに自分たちが加わることで、グループも成長し自分も人間として成長していける実感が得られなければいけないと思います。これは地域活動でも一緒に、先日、市の職員とたすけあい会議検討会の中で同じ意見が出ました。それは、どういう人が担った方が良いのか考えたとき、やはり楽しんでできる人、人助けを自分の成長に合わせながら楽しんでいけるような人になると一番良いという話になりました。ボランティア連協がなくなってしまう原因もそういうところにあるのではと思います。グループが独立してやっていること自体は尊重しなければなりません。連携したり、新しい情報が入ってきたり、新しい仲間が出来てきたり、そう言う楽しみや繋がっている喜びを得て、自分が大きく成長していける因子がそこに無かったら駄目だと思います。私はNPO法人を作ってからどちらかと言うと社協の協力が得られないときもありましたが、そろそろ住民無しに今後の福祉は成り立っていかないの、いかに住民活動を上手に育てていくか、その力をくみ取っていくことに目を向けていただきたい。プランの重点事業5に書かれている課題はまさにその通りだと思います。いつも社協はそれ以上負担を増やしてはいけないと言いますが、そこに自分が成長していけるものがあれば、毎回は出られないけど月に一回や、出られるときに出ていただければ良いなど、柔軟な対応をすることで、その人はそこに居場所をもてます。そういう風にいろんなことを考えながら人を育てていかないといけないし、育てながら繋げていかななくてはならない。一人ずつの力はある程度限られているが、違う力を持っているところの人と連携することが大事で、みんな待っていると思います。私達とやれるところが無く社協しか行くところが無かったのに、社協には市に行って市の窓口がどのように答えるか答えを貰ってこいと言われる。私達は三十何年やってきていますが、社協や市の職員は私達の今やっている活動を知らないのです。日進市の中だけでやってきているのに、私達が地域課題にどう向き合って何をやってきているのか市も社協も知らないし、知ろうとして来たことがないし言ってきてとも言われぬ。最初は広報に載せて貰うことも凄く反対されました。いろんなことをやっているから書いてと言ったときには貴方達は地域のボランティアなのでと言って地域のボランティア連絡会としか書いて貰えなかった。リサイクルもしているのだから様々な活動を書き入れてほしいと言っても書いて

て貰えなかった。いかにそういう道を辿ってきたかを皆さんに言っても今更ですが、今からでも遅くないと思うので、一人ずつの活動を大切に、成長を願っていくことが必要です。社協や市の力があつたら、私達のような活動する団体が街中にたくさんあつたと思います。今でも困っている人がたくさん居ますので、よろしくをお願いします。

委員長 活動者であり、この当該委員でもあるという声の重さもありますので、知っている話もあるかもしれませんが、やっている側が知っていると思ってもらえていないという事実がありますので、そこはお互いの学習だと思います。当然行政、社協として出来る事、出来ない事はありますけれども、何十年もやってこられた経験がきちんとありますので、ノウハウも含めて学ぶ点はあるかなと思います。

委員 つどいの場について、私たちが実施しているほっとカフェが非常に上手く機能しており、また、私が住んでいます香久山では香久山たすけあうまちづくり協議会を設置しています。この2つの進捗状況、実感している事を言います。つどいの場のほっとカフェはここに書いてあるような地域課題を解決する共同組織をやるのではなく、外へ出る機会の無いお年寄りとか色々な方の外に出る場所を提供し、月1・2回、色々な人と話が出来ますというような形でやっています。そこへ行けば色々な人の顔が見れる・話が出来るということで非常に大事な役割を担っていると思います。ただ問題は回数が少なくお年寄りの中にはそこ行くのも大変だと言う事です。まちづくり協議会も、非常に時間をかけて社協の指導や助けもあって取り組んでいますが、現状は中々広がりません。課題を持っている意識のある人が20人ぐらいはいますが、民生委員や各団体の指導者で止まっています。今区の中が30数年経った所でやや高齢化してきまして、ある年齢層以上の人達と新たに入つてこられた若い人との間がどうも一体になっていない状況があり、非常に危惧しています。自治会加入率も低下してきているので、もっと原則として皆さんに入ってもらいたいが、現状はそうならない。その辺を解決しながら地域全体でまちづくりをやるぞという人達の集まる場として、ほっとカフェやたすけあうまちづくり協議会が話をする場として使用できます。このつどいの場としてのほっとカフェや、色々なクラブがやれる定例会の場など、そういう人達が連携して繋がりをもつ事によって我々がやりたい事や皆でたすけあうまちづくりが出来ていくのではないかと思います。

委員長 ありがとうございます。実態として活動されていますので、今日のお話の中でも皆さんが活動されていて、市民の善意に基づいて活動がなされていると思います。これを制度としてどうするのかを考えるということです。一つは重層的支援の仕組みを作っていく行政の制度づくりがあるわけですので、いつも活動している市民の皆さんの後押しになるような仕組みを是非とも考えてください。その意味では

先行して先程の包括的相談支援の体制を進めていく、しかし一方で地域づくりに向けた支援、住民同士が顔の見える関係性の育成支援、こちら側も両輪であるのできちんとやっていくということを令和4年度に考えないといけないのではないかと思います。令和4年度にいきなり出来るわけではないと思いますが、その根拠付けとなる資料は十分出てきたと思います。今回のアンケートの結果を根拠に、きちんとこういった仕組みが必要で、重層的支援体制整備事業を行っていく為にもこういった予算が必要だと主張できると思います。ただ、令和5年度からやろうと思ったら今年の5月、6月にある程度の予算が決まっていけないので中々厳しいのは理解しますが、令和6年度にスタートできるにはどうすればいいかということを考えてください。その為には令和4年度中にどこまで考えて予算を設定し、令和5年度にきちんと予算として立ち上げられるような仕組みづくりをしていただければと思います。正直、この仕組み作りはかなり大変だと思います。たすけあい会議やこのプランの表紙にある自治組織を作るというのはここだけの話ではない。本当にそれをやろうと思ったならば、自治基本条例の改正まで視野に入れないと中々進まないかもしれない。それぐらいのものだということはお認識された方が良いでしょう。日進市にも自治基本条例がありますが、あくまでもあれは理念条例です。理念型で、その理念の基に制度を作ることはできますが、自治体でこういった自治組織やたすけあい会議を作ろうと思った場合には、その自治基本条例が具体的に動かしていく参加の手続きを示していくような条例にしていけないと進んでいきません。理念だけでどこまで出来るのか、出来ないならば自治基本条例の改定まで含めた所に手を突っ込んでいくのか、日進市の良いところは自治基本条例の改定をする手続きがきちんとあるところです。そう言った議論のある制度をどうやって作っていくかということ踏まえた上で、この重層的支援体制事業を進めていただければと思っていますのでよろしくお願いします。

委員 私は色々な会議に出ているので頭が混乱してくるのですが、一つは資料2-1の2ページ目、避難所開設・運営訓練について、私は避難所開設訓練に参加していますが、避難所開設訓練というのは究極に困った状態で誰もが助けを必要としているところだと思いますが、ここ2年程はコロナの関係もあって難しかったかと思います。ただ、このような訓練に参加していると、そこで顔見知りになるといったことがあります。私は避難所開設訓練に初回から全部参加しており、その中で色々な方と知り合いになったりとか、消防署の方とお話も出来たりもします。私は阪神大震災で被災していますので、まちづくり、たすけあい会議など色々書いてありますが、助け合わないといけないところはやはり避難所開設だと思いますので、担当部局が市民団体の方やボランティアの方等にきっちり声をかけてやっていくのが良いと思った次第です。福祉とかまちづくりは抽象的なもので分かりづらいところがあると思いますが、こういう分かりやすい避難所や防災等、何か一つ目標をもってやっていくと人が集まりやすいのではないかと思います。先程、SNSやフェ

イスブックを使うことで学生さんたちがすごく来たというお話がありました。阪神大震災の時も大学生のボランティアさんがすごく来ていました。そこが繋がれば、色々な活動をやる際にもどんどん繋がっていくのではと思います。

委員 防災の話になりますが、私達の法人は小さいですけれども古いものも含めて建物を3つ所有しています。自分たちで防災の計画を作ったとしても、全体でどんなお役に立てるのか不安です。例えば、市民協働課がNPOなど色々なところに声をかけて集会をし、ここには倉庫はないが厨房がある建物があるというような情報を集めて、日進の防災に活かすような計画が市全体として作れないものかとずっと考えています。私達は厨房や家はあるけれど、倉庫は無いので、どこまで皆に提供できるのかいつもあやふやな気持ちでいます。ここをコーディネートするのが市民協働課なのではないかと思いつつも、諦めている状況です。私達が持っている能力をもう少し皆の役に立つため、いざという時にはこんな力が発揮できるということを皆で話し合いながら、これが出来るという話し合いを持っていないものなのでしょうか。計画というのは、まち全体で皆が手を組んで出来るような仕組みとなるべきで、それには市役所がリーダーシップをとってやるべきではないかと思っています。もう一つ、先程重層的支援体制整備事業を行っていきまうということですが、出来たら市民と役所と一緒に勉強する機会を作っていただきたいと思っています。新しく重層的支援体制整備事業に向けて、ちょうど地域共生の入れ代わりの時に、長久手、日進、東郷、豊明の4市町のボランティアが集まって講演会を開きました。住民参加を呼びかければ、今は参加する人もたくさんいると思います。カフェもたくさん出来ましたし、協力者もたくさん居ますので一緒に勉強しませんかと声を掛けていくと、ボランティアの人達もたくさん参加するのではないかと思いますので、是非そういう機会を市役所が作っていただければと思います。

委員長 ありがとうございます。先程、両方ともに災害の話がありました。災害ボランティアは一つのボランティアのきっかけになると私も思っています。災害ボランティア養成講座もきちんと定期的に関き、受講者もいるということですので、その意志をきちんとすくい上げながら繋いでいく仕組みづくりをすることはきっと意味あるものになっていくと思います。市民協働課の話が出ていますが、市民協働課をどう巻き込むかと言うことは地域福祉においても間違いなく必要になっていきますので何とかしてほしいところです。もう一つ、にぎわい交流館の管理、運営に社協が手をつけるということも色々な自治体で出てきています。市民活動センターを社協が管理・運営していき、より市民活動とボランティアを繋いでいくというような戦略を取るのも一つの手です。そういったところで予算をつけながら人もCSWも重なり合いながら制度を作っていく事、市民活動センターのあり方も全国で悩んでいるところです。NPOとどう関わるか、そこに社会福祉協議会もどう関わってけるのかというのは一つの視点だと思います。

委員 大学の地域連携の窓口の人として考えた時、こちら側の立場に近い人の感覚なのでこんなにも課題が見えてしまって、大学として何が出来るかと見た時に、どう見ても大学生が活動できるのは子ども会や子ども向けの活動、事業所に行っている福祉の子もいますが、まず、福祉の職に就かないことが本当に問題だと思います。福祉の学部の学生の6割ぐらひは福祉の関係ではない会社に就職します。福祉のことを学んでいる子達はとても必要とされ、メーカー等にも行ったりします。しかも、4割の学生さん達にどこに行きたいかと聞くと、市役所か社協と言います。施設という子が少ないというのが、私の個人的肌感です。仕事の大変さとかお給料とかがあるので、最初から選ばない子が多いです。大学側の反省もあるのですが、学生時代にお邪魔してボランティアをして、そこの職員さん達や利用者さんの心が分かる子は就職します。それを増やさなければいけないと思ったのと、子ども会の事ですと、今の親御さん達は役員をやりたくないと言われます。アンケート結果を読んでも、お金を出してもいいから子ども会の内容を外注した方がいいと書いている。私も日子連の役員を日進で7年やりましたが、自分の子ども以外の子どもを見る事でとても勉強になりました。自分の子ども達が子どもの中で、どう活かされていくか、逆に言うと色々な子がいることで自分の子どもの良い所も悪い所も分かりましたし、それを分かる親が多いと小学校や中学校の先生がどれだけ大変かが身をもって分かるので変わったクレームを言わなくなります。子ども会の組織はすごく大事だったのに親が役員をやりたくないからと自分が現場に行かずに放棄するが、子ども達の世界だけでも守ってやりたい。色々な内容で交流をし、サッカーチームに入らなくても、塾に行かなくても普通の子どもの中で遊ぶことをさせたいという相談が何件も大学に来ています。子ども会さんとは出来たら年の何回かだけでも連携をしたいです。ただ、キャンプについていくという事業がありまして、一泊二日の体験こそ子ども達には大事だと思っておりましたが、それも止めると言います。こうやって若い層もボランティアに参加しないのに、もっと年を取った時に市民としてまちを作れるかと言うと多分難しいなと思っっています。別例ですが、豊田市は小学生、中学生、高校生の地域活動教育をしています。豊田の140人の高校生が一年間かけて活動していて、多い子は三年間活動しています。その子達を支える交流センターの職員さん達自身が子ども会活動や地域活動を仕事ではないところでしているのです。そういう事をしている職員さんを見て高校生の子達が一年間を通じて活動して子ども会の素晴らしさがわかって、その子達はゆくゆく子ども会活動をする大人になると思うのです。豊田は市役所職員とか青少年交流センターの職員がボランティアもしているし仕事もしています。また、長久手市は方向性が変わってきていて、この間、リモテラスでイベントがあった時に、普通に職員が遊びがてら応援に来ていました。とても素晴らしい事で、それを見た市民がボランティアでもっとがんばろうと思う。それは人間だから仕方がない。人間だから、心だから、頑張っている人を見れば応援したいし、頑

張っている人を見たら自分もやれると思える。来年度からは皆さんもまちに出ましよう。そうするとみなさんが言われていた事にちゃんとこたえられると思います。

委員 たすけあい会議の設置の実施方針に重層的支援体制整備事業を入れていくということを書いてくださっていますので、やっと進んでいくので良かったなと思っています。ただ、この計画の68ページにたすけあい会議の事が書いてあるのですが、今はここに書いてある事とは全然違う事になってきていますし、たすけあい会議の具体的な姿が全然見えていないので、組織の具体的なイメージが現時点であれば教えてほしいです。また、実施状況について確認したい点があるので教えてください。(1)の第一層協議体の実施状況について、今年度は実施したかどうかを教えてください。(2)の地域たすけあい相談員による何でも相談件数は518件と書いてありますが、この内、実施方針に書いてある制度の狭間で苦しむ方の個別支援のケースにあたったのは何件ぐらいかわかったら教えてください。(3)の福祉事業者交流会開催回数について、これは高齢福祉分野の事業所の集まりと読めますが、他の分野の事業者、例えば障害福祉サービスの方達の集まりが有るのか無いのかを教えてください。最後に、先程から何度も出ていますが、つどいの場の開設という所で、これだけの数が出来上がってきていますという報告は毎年ありますが、市もしくは社協さんの方でつどいの場を今後どのようにしていこうかという様な思いやビジョンのようなものがあれば教えてください。

事務局 まず、地域たすけあい会議の設置については、令和4年度実施方針の中で、まち協や生活支援体制整備事業などを踏まえて役割や組織案を検討していくという形で記載させていただいております。今後の検討の仕方として、資料2-2にあるような重層的支援体制の仕組みを踏まえた地域たすけあい会議の構築・検討、まずは全域をカバーする支援体制として着手するような形での検討を行なっていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

また、第一層協議体の開催につきましては、今年度開催の予定はございません。

事務局 次に地域たすけあい相談員の相談件数の内、制度の狭間で苦しむ方の個別支援について、内容は個別支援なので申し上げにくいのですが、コロナ以前で、ホームレス支援や障害によるご近所トラブルの対応等で年間100件近かった事は記憶していますが、個別支援のケースがその後の対応によって安定しているのでそちらの方の件数は伸びていません。一方、制度の狭間といっても例えば、ワンコインの中でも事業所がやるべきことなのかワンコインの中で制度の狭間として対応するべきかと言う議論は、定例的にワンコインサービスをしてくださっている団体さんと常にしています。正確な件数はわかりませんが、その団体の相談は3分の1にのぼっているかと思います。つどいの場の開設について、私達CSWはアウトリー

チももちろんするので、つどいの場に赴いてお困りの方がいないかどうかや個別支援に繋げる方は繋げさせていただいて、どこにも該当しない方はCSWがバランスをとるという事をさせていただいております。つどいの場の団体支援という事では、助成金あるいは運営方法が苦しくないかという事で毎年助成の要綱を見直しております、来年度は、コロナ対応が出来る助成要綱に変えております。地域づくりとしましては、つどいの場に行く足の手段、交通手段が無い方にも是非ともつどいの場に来てほしいとつどいの場の代表の方がずっとつぶやいていたものを地域の課題として香久山のまち協が出来たり、移動支援に繋がったりとしていますので、つどいの場というのはそこにあって皆さんがつどってくださるだけでも重要な社会資源ですし、その中には沢山の課題があり、そこに気付いていくのが専門職の仕事になっていくと思いますので、つどいの場はつぶやきの場所であったり、自然と地域課題が見えてくる様な場である様に職員が努めていく必要があると思っています。

事務局 福祉事業者交流会数の件、こちらは地域福祉課や社協が把握している部分ですので、障害や子育ての詳細については把握しておりませんが、何かしらあるという可能性はありますので、最終的に令和3年度の最終的な実績をまとめさせていただく時は、照会先を広げてもう少し障害だとか子育ての部門での交流会について、把握させていただきたいと思っております。

委員長 ありがとうございます。細かく見ていただきましたけれども、この2年間はコロナ禍という事を理由に色々と実施や評価に関しても詰められなかった点があるかと思っております。当然今後もコロナ禍を前提とした色々な支援の仕組みや活動を、行政も住民も考えないといけないと思っています。アンケートの中で、コロナ禍だったからというコメントもありましたけれど、ではそれを前提にどんな活動が出来るかというのは、行政側も伴走が必要かなと思いますので、よろしく願います。今日、皆さんの意見を聞いて気になった事が出てきたかもしれません。気付く事もあるかと思っておりますので、せめて年度内にいただいた委員からの意見は受け止めてください。よろしく願います。

委員 一点だけ願います。毎回この場には担当部署の方がいらっしゃっていないのですが、災害時要援護者という概念と災害時における要配慮者及び避難行動要支援者は違っているはずですが、災害時要配慮者の中の避難行動要支援者に関しては、各個人のサポート体制を組むようにとの国の方針が出ているのですが、これが特に日進市の中で取り上げていただけていないので、実際に災害が起きた場合、大きな問題になる気がします。その考え方を担当部署とすり合わせをしていただけて、次回どういう方針なのか知りたいと思っておりますので願います。他にもありますが、今日はこれだけにしておきます。

委員長 ありがとうございます。ずっと言われている事ですので、そろそろやはり行政としてきちんとどうするのか、どう対応するのかという事を答えていただきたいです。毎回意見を言われていますので、よろしくをお願いします。とりあえず議題という形ではここで一旦切ろうと思います。では、進行を事務局にお返しします。

事務局 委員の皆様には、令和2年より委員を務めていただきありがとうございました。本会議が皆様の任期中の最後の会議となります。御礼の挨拶を健康福祉部担当部長の伊東よりさせていただきます。  
(健康福祉部担当部長あいさつ)

事務局からの連絡は以上になります。その他として、委員の方からチラシ、リーフレットをいただいておりますので配布をさせていただきましたが、何か補足、説明はされますか。

委員 (チラシ・リーフレットの説明)

事務局 これで、令和3年度日進市わたしのまちのしあわせまちづくり委員会を終了いたします。本日はありがとうございました。

(午後4時20分閉会)